

## 華嚴寺

鈴虫寺としても知られる華嚴寺は臨済宗に属する禅寺である。鈴虫は日本固有種の鈴虫の和名である。寺でお茶やお菓子を楽しみながら（日本語での）説教を聞く書院では何千という鈴虫が飼われている。

華嚴寺は1723年に鳳潭上人（1659－1738）によって建立された。鳳潭は奈良時代（710－794）に日本に伝えられた中国大乘仏教の一派である華嚴宗の再興を目指していた。この宗派の教えは密教と禅宗の影響を受けている。鳳潭上人は禅宗の一派である黄檗宗で修行をはじめ、その後禅師の鐵眼（1630－1682）に学んだ。鳳潭上人が華嚴宗の復興に注力すべきだと指示したのは鐵眼であったが、鳳潭上人は天台宗や密教の学びを続けながら京都や大坂で過ごした後に奈良で華嚴宗の教えを極めたと言われている。鳳潭上人が1700年代はじめに江戸へ華嚴宗の講教のため向かった際には、華嚴宗の主な教義である華嚴経を他の宗派の僧侶と議論したと言われている。

京都へ戻った後は華嚴寺を建立し、その後も鳳潭は論争を続け、華嚴、天台、三論に関する著作を残した。鳳潭の死後の華嚴寺の住職は、華嚴宗ではなく禅宗を行ったが、華嚴寺は1868年に臨済宗の寺となるまで表向きは華嚴宗の寺として運営されていた。